



12 益田圏域（農業・農村）

（1）現状と課題

石西地域は、平坦地域や中山間地域、それぞれの土地・自然条件を活用した特色ある多様な農業生産が展開されています。

水稻は、特別栽培米「ヘルシー元氣米」を圏域共通の「売れる米づくり」商品と位置づけ、生産・販売拡大に向け取り組まれています。

園芸作物は、主にトマト、メロン、ぶどう、わさびなどが栽培され、H23年度に整備された高機能選果機を活用するなどして、県内外の各市場や贈答品、加工用原料として流通・販売されています。

畜産は、中核的な農家や大型畜産経営体の規模拡大などにより飼養頭数が増加しています。また、WCS（飼料用稲ホールクロップサイレージ）の収穫調整を行う組織により、飼料の自給率向上に向けた取組が行われています。

こうした中、圏域の農業生産は、高齢化等による労働力不足、農産物価格の低迷により、生産量が減少傾向にあることから、将来を見据えた担い手の育成・確保による多様な農業の持続的展開、農畜産物の高付加価値化対策や有利販売対策を通じた地域の活性化等が課題となっています。

（2）重点的取組の展開方向

①担い手の育成

将来を見据えた担い手の育成・確保に向け、各市町農業再生協議会*が中心となって、地域内での資産継承や技術伝承の仕組みづくりを進めるとともに、県内外からのUIターン・雇用を含む新規就農者の確保や認定農業者、集落営農組織の育成・法人化、集落営農組織の広域連携化や定年帰農者の確保を進めます。

また、農地の有効利用の観点からも、企業の農業参入について、積極的に推進していきます。

②生産振興

時代の変化に対応し、現存する資源を有効活用しながら産地づくりを進めます。

売れる米づくりとして「ヘルシー元氣米」を中心に、高付加価値化や近年の温暖化に対応した生産対策を推進します。

平坦部を中心としたトマト、メロン、ぶどうの産地維持・拡大を図っていくとともに、中山間地での有機農業*の推進やわさび、山菜など特色ある作物の振興に取り組みます。

畜産については、子牛市場の活性化による農家経営の安定化を推進するとともに畜産廃棄物の処理など適切な環境対策に積極的に取り組みます。

生産された農畜産物については、流通・販売実態の把握、課題の抽出・整理を通して、より有利に販売していくための具体的な対策を講ずることにより、生産者の所得向上を目指します。

③生産基盤

中山間地域の生産基盤・生活環境の整備、農道の保全、国営開発地での用水施設の更新など、農業・農村環境の改善と農業用施設の長寿命化を図るとともに、農地・水保全管理支払交付金制度*等の活用により、農地・農業用施設を地域ぐるみで守ってゆく活動を推進します。

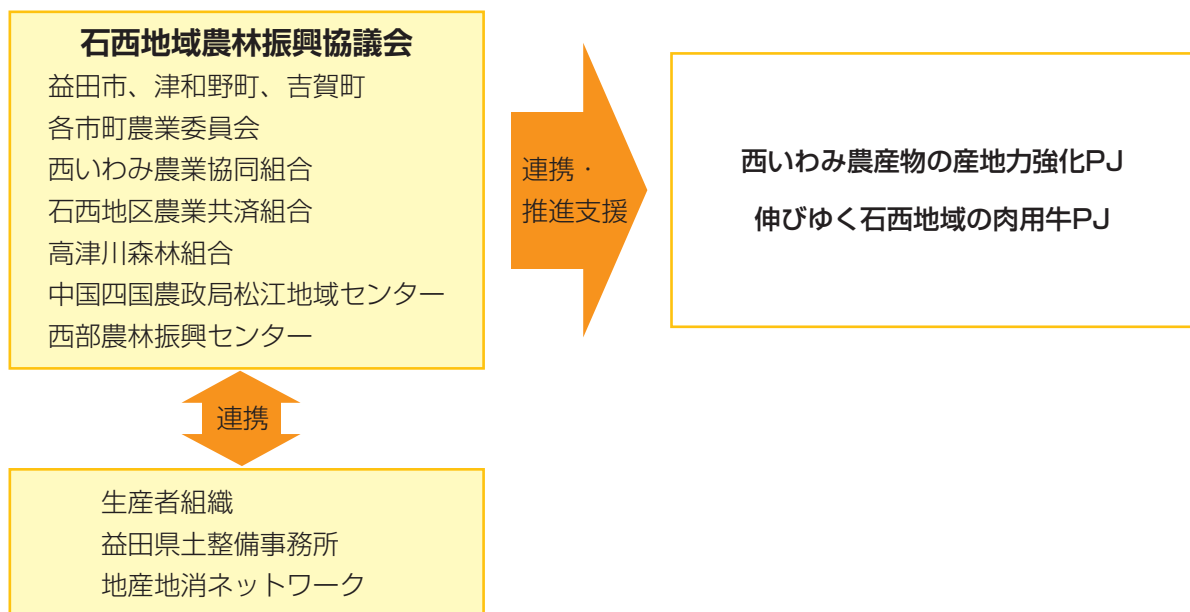
④地域活性化

日本一の水質を誇る高津川など豊かな自然に育まれたふるさとを農林水産業の活動を通じて守っていくとともに、定住の促進や都市住民との交流、地産地消の推進に加えて、清流高津川の魅力を圏域内外に発信するなど様々な取組により「住んでうれしい・訪ねて楽しい」地域づくりを展開していきます。

(3) 主な指標の将来見通

項 目		H22 → H27	備 考
1 耕地利用 (耕地面積等)	①担い手への集積面積(ha)	1,182 → 1,300	
	②認定農業者数(人)	166 → 181	
2 農業生産構造 (集落営農組織数等)	②集落営農組織数(組織)	64 → 74	
	③新規就農者数(人/年)	7 → 15	雇用就農含む
	①ヘルシー元氣米販売額	12 → 25	農協取扱
3 主要品目の生産 (百万円)	②トマト販売額	189 248	農協取扱
	③メロン販売額	289 300	農協取扱
	④ぶどう販売額	277 351	農協取扱
	⑤わさび販売額	80 80	農協取扱
	⑥産直産品販売額	164 → 186	農協・三セク取扱
	⑦肉用牛飼養頭数(頭)	8,623 → 8,750	県調査から

(4) 推進体制



(5) 地域プロジェクト

- ① 西いわみ農産物の産地力強化プロジェクト
- ② 伸びゆく石西地域の肉用牛プロジェクト

1 目的と取組

目的

これまで、西いわみ農産物の有利販売に向けた取り組みを進めてきたが、一方で、生産者の高齢化や資材費の高騰など、農業経営をとりまく状況の変化等により産地が脆弱化してきた。

このため、時代の変化に即応した生産体制の強化や地域資源等を活かしたこだわりのある農産物の販売力強化により、生産者所得の向上を図るとともに、後継者の確保・資質向上や高齢化に対応した栽培支援体制の構築など、担い手の育成・確保を推進し、活気にあふれ持続的に発展する産地づくりを進める。

課題

■生産力の強化

消費者・実需者ニーズに応える環境に配慮した農業の推進や資材費高騰、高温などの異常気象対策等、時代の変化に即応した生産体制の強化が必要である。

■販売企画力の強化

農産物価格が低迷しており、有利販売に向けた更なる販売企画力の強化が必要である。

■人材力の強化

担い手の高齢化、後継者不足等により産地が脆弱化しており、新規栽培者の掘り起こし、後継者の資質向上や高齢化に対応した栽培支援体制など、担い手の育成・確保が必要である。

取組

○時代の変化に即応した生産体制の強化

遊休ハウス・遊休園の活用による新規就農者の参入や既存農家の規模拡大推進、異常気象対策・低コスト技術導入による安定生産、環境に配慮した農産物の生産拡大を進める。また、農政改革に対応した飼料用米の安定生産の取組を進める。

○有利販売に向けた販売企画力の強化

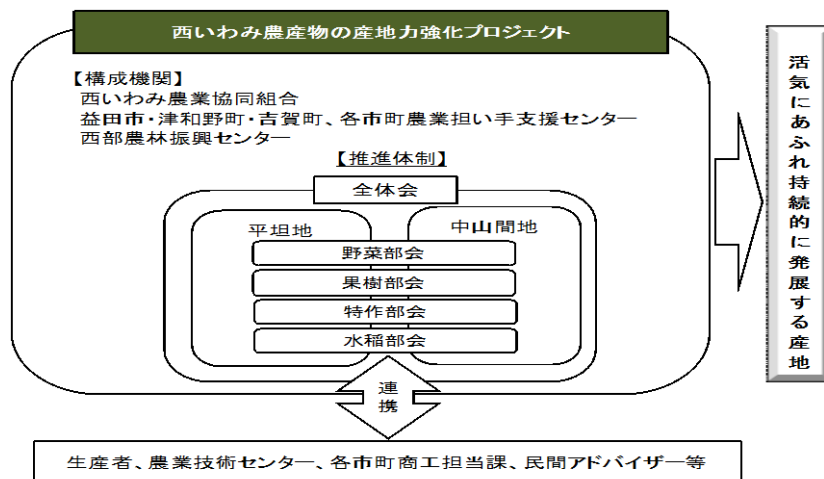
消費者・実需者ニーズに対応した商品づくり・販売展開、産直野菜の推進、地元産品を活用した加工品の開発・販売など、地域資源を活かしたこだわりのある農産物の販売力強化を推進し、生産者所得の向上を図る。

○持続的産地づくりに向けた担い手の育成・確保

産地内技術伝承などによる後継者の資質向上支援や高齢化に対応した栽培支援体制構築により、担い手の育成・確保を推進し、活気にあふれ持続的に発展する産地づくりを進める。

2 推進体制

全体会の中に作目別・地域別で構成する小部会を設置し、プロジェクト活動の一体感を高め機動的・効率的活動を図るとともに、必要に応じて他部署等と連携しながら課題解決に向けた取り組みを推進する。



関係・連携するプロジェクト

- 園芸産地の再生(県)
- 有機農業の拡大(県)
- 新規就農者の育成・確保(県)

3 取組項目と具体的行動計画

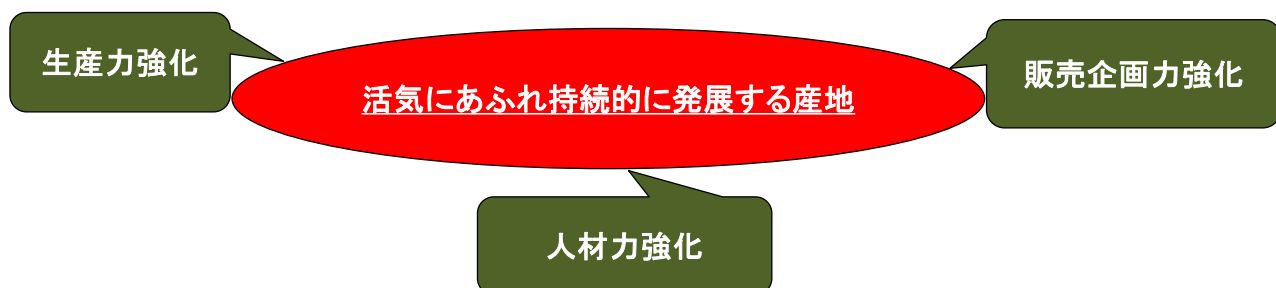
取組項目	具体的行動	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
時代の変化に即応した生産体制の強化	遊休ハウス・遊休園の有効利用システム構築・運用	市町担い手支援センター				→
	異常気象対策、低コスト技術の確立・普及	農協、西部農林振興センター				→
	有機農産物、エコ農産物の生産拡大	農協、吉賀町、西部農林振興センター				→
	飼料用米の安定生産	農協、西部農林振興センター				→
有利販売に向けた販売企画力の強化	消費者・実需者ニーズに対応した商品づくり・販売展開	農協、益田市、津和野町、吉賀町、西部農林振興センター				→
	産直野菜の推進	農協、益田市、津和野町、吉賀町、西部農林振興センター				→
	地元産品を活用した加工品の開発・販売	農協、吉賀町				→
持続的産地づくりに向けた担い手の育成・確保	産地内技術伝承、研究活動推進による後継者の資質向上、将来の産地リーダー育成	農協、益田市、西部農林振興センター				→
	高齢化に対応した栽培支援体制の構築	農協、益田市、津和野町、吉賀町、西部農林振興センター				→

4 成果指標(数値目標)

項目	現況(H22)	目標(H27)
遊休財産の継承件数	3件/年 →	18件/H24~H27累計
主要品目の販売額(ぶどう、メロン、トマト、わさび、山菜、栗、西条柿、柚子、ミニトマト、産直野菜、有機・エコ野菜、トルコギキョウ、ヘルシー元氣米)	1,159百万円 →	1,373百万円
産地を担う新規就農者の確保数	1名/年 →	12名/H24~H27累計

プロジェクトの概要

三本の矢による戦略展開



1 目的と取組

目的

益田圏域の農業産出額の内、畜産が占める割合は、経営規模拡大や適正な環境対策などにより、50%に迫るところまで増加しており、地域農業の重要な基幹作目として位置づけられている。

畜産の中では、肉用牛の比率が最も多いものの、高齢化や飼料価格の高止まりなどにより、農家戸数の減少が続き、西部子牛市場に上場される子牛の頭数が近年減少傾向となっていることから、産地の維持や市場の存続のためにも西部市場の活性化、また、生産コストの低減や経営の安定化のための自給飼料の確保などが課題となっている。

一方、環境に優しい農業が推進され「ヘルシー元気米」の栽培など、畜産から生産される堆肥への期待も高まってきており、安定的に堆肥を供給、散布できる体制が求められている。

このため、西部子牛市場の活性化や飼料自給率の向上、地域内の広域的な堆肥の流通システムの構築などを通じて肉用牛農家の経営安定と発展を図る。

課題

- 肉用牛農家の生産拡大と経営安定のため、西部市場の活性化に向けた取組が必要である。
- 自給飼料確保に向け、WCS用稲(飼料用稲のホールクロップサイレージ)の栽培面積の拡大と品質向上並びに流通体制の強化が必要である。
- 家畜糞尿の適正処理と活用のため、益田圏域全体での広域的な堆肥の安定供給・散布システムの構築が必要である。

取組

○西部市場活性化対策

市場出荷子牛への生産履歴情報添付による他市場との差別化を図るとともに、「しまね和牛子牛の飼い方マニュアル」の励行による肥育に適した子牛の市場出荷、新規就農者・中核的担い手の育成による子牛生産基盤の安定化と生産率向上への取組みにより市場上場頭数の確保を図ることで、市場購買者が魅力を感じる市場づくりを進める。

○自給飼料の確保対策

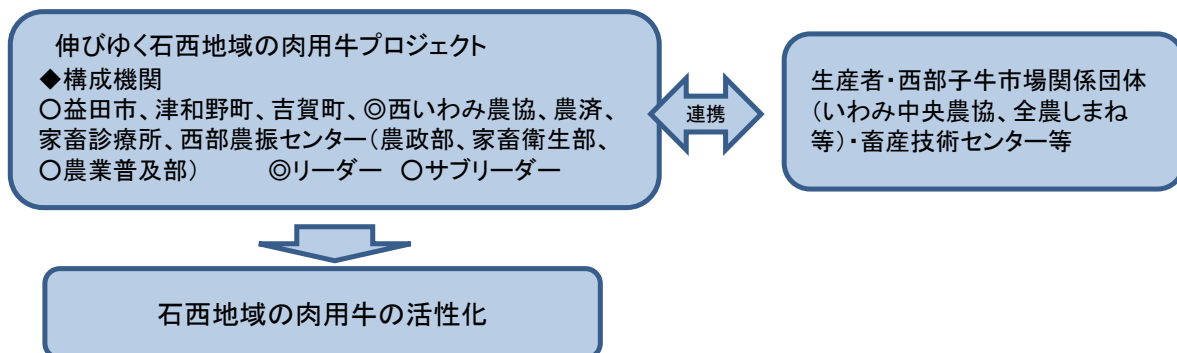
WCS用稲の栽培面積の拡大と品質向上を図るとともに、耕畜連携による生産・流通体制を強化する。

○堆肥流通対策

大型畜産経営体と堆肥センター等との連携による良質堆肥の供給・散布体制の構築を図ることにより、糞尿等の適正処理を推進する。

2 推進体制

「和牛繁殖産地の再生プロジェクト(県)」と「伸びゆく石西地域の肉用牛プロジェクト」を、西部市場管内の関係機関等が連携して推進する。



関係・連携するプロジェクト

- 和牛繁殖産地の再生(県)
- 水田フル活用に向けた耕畜連携推進(県)

3 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動計画	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
西部市場活性化対策	市場出荷牛への生産履歴情報添付の推進	農協、農済、西部農振センター				→
	「しまね和牛子牛飼育マニュアル」の励行による出荷子牛の品質向上	農協、西部農振センター				→
	空胎防除、飼養管理改善などによる生産率向上	益田市、津和野町、吉賀町、農協、農済、西部農振センター				→
	新規就農者の確保と早期の経営安定に向けた支援	農協、益田市、津和野町、吉賀町、西部農振センター				→
自給飼料の確保対策	WCS用稲の栽培面積の拡大と品質向上	益田市、津和野町、吉賀町、農協、農済、西部農振センター				→
	耕畜連携によるWCS用稲の流通体制の再構築	益田市、津和野町、吉賀町、農協、農済、西部農振センター				→
堆肥流通対策	良質堆肥の供給・散布体制の構築	農協、益田市、津和野町、吉賀町、西部農振センター				→
	糞尿等の適正処理の推進	農協、益田市、津和野町、吉賀町、西部農振センター				→

4 成果指標(数値目標)

項目	現況(H22)	目標(H27)
繁殖雌牛頭数	1,438頭 →	1,500頭
WCS用稲栽培面積	31ha →	35ha
(堆肥センター) 堆肥供給量	3,734t →	4,000t

プロジェクトの概要

産地の課題

- 肉用牛の生産拡大
- 飼料自給率の向上
- 家畜糞尿の適正処理と活用

PJ推進項目

- 子牛市場の活性化
- 地域資源を活用した自給飼料の確保
- 堆肥の流通・散布体制の構築

産地の将来像

- 住みよい農村環境の形成と畜産を通じた地域産業の活性化と雇用の確保

